

気になったから 勝手に調べたブログ

2月号

第10回 「冬眠と冬ごもり？」



「冬眠・冬ごもり」という言葉を聞いたことがある人は多いと思います。
文字のイメージだと、ただ眠っているだけだと感じますよね。

・・・と話す私も知りません(^^;
そこで今回の勝手に調べたブログは、「冬眠と冬ごもり」について調べてみました。

冬眠と冬ごもりは、動物が食べ物の少ない冬を乗り越えるために、長期間ほとんど眠ったような状態になることです。「まじ生きてんの？」と思うほど。
ただ寝ているわけではなく、体をほとんど動かさない超省エネモード。
例えるなら、虫ならサナギ？ パソコンならスリープ状態？なのかな～？



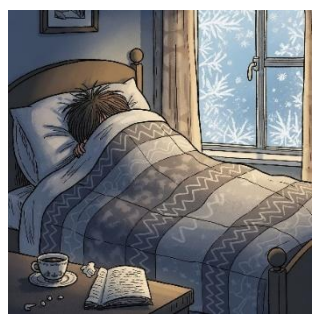
冬眠（本格的）

- ・体温・心拍数・呼吸が極端に下がる（数℃まで落ちる動物も）
- ・代謝が大幅に低下する（省エネモード）
- ・ほとんど動かない（数週間～数ヶ月）
- ・体の一部が凍結しても耐える種もいる（カエルなど）
- ・外からの刺激に反応しにくい
- ・冬眠前に脂肪を大量に蓄える
- ・エネルギー消費量は通常の1/10以下になる
- ・冬眠する動物：ヤマネ、コウモリ、ハリネズミ、カエル、ヘビ など



冬ごもり

- ・体温は少し下がるていど
- ・心拍数・呼吸もそこまで低下しない
- ・深く眠るが、外の刺激に反応しやすい
- ・たまに起きて体勢を変える、子育てすることもある
- ・エネルギー消費は冬眠ほど小さくない
- ・食べ物などはストックしている場合がある（リスなど）
- ・本格的な省エネモードにはならない
- ・冬ごもりする動物：クマ、アナグマ、アライグマ、木に住むリス など



ざっくり言うと、冬眠は特殊能力で冬ごもりは
「寒い、布団から出たくねー！でもトイレ行きたい！」状態？

冬眠には、代謝を大きく下げて脳や臓器を守る仕組みがあります。
冬ごもりは、体温をほぼ保ったまま寝たり起きたりして冬をやりすごす状態。
どちらも人間にはできません。さらに、冬眠中は老化も劇的に遅くなるそうです。
人工的に冬眠状態を作る研究が「理化学研究所」や「岡山大学」などで行われているそうです。
もし実現すれば、抗がん剤治療の負担軽減や、遠くへの移動などに期待できそうですね。

若く見えるあの人、・・・実はこっそり冬眠しているのかもしいれないぜえ～(^^;

次回は「卒業式の定番『蛍の光』・・・実は？」